

長野県果樹試験場同窓会だより

No.33

長野県果樹試験場同窓会発行

長野県農業大学校農学部果樹実科・研究科事務局内

〒382-0072 須坂市大字小河原 492 TEL 026-246-2415 FAX 026-251-2357

同窓会員の皆様へ

昭和 46 年度卒

会長 松 本 和 実



同窓会員の皆様にはご健勝の事とお慶び申し上げます。

今春、親和会より学生をもっと増やそうと提案がございました。誰もがそう思っていたのですが、次の一步が踏み出せませんでした。そうしたところ、青木親和会長より具体的なたたき台を提案して頂き、果樹試験場・同窓会・親和会合同で話し合い、ロコミ作戦で受験生を増やそうと行動を始めました。

- ① 果樹実科・研究科入学生減少の現状を文章にして OB, OG へ郵送→広報にて依頼。
- ② 全農、県下の果樹販売のある JA 単協に現状を訴え広報を依頼。

来年度の進路選択に間に合わすため 8 月初旬までに完了致しました。各 JA では、好意的に受け入れて頂き、私達も訪問出来て良かったものと思っています。

さて本年は 5 月の氷害を始め、夏の高温乾燥による果実の発育不良、障害果の多発と苦勞の絶えない年となっています。

寒冷地果樹に分類されているリンゴは特に厳しい現状かと思われますが、長野県果樹試験場では、様々な試験研究をされています。この高温下での有効な栽培方法、品種の育成等、私達果樹農家に伝えて頂きたいと思います。

本年度の総会に於いて果樹試験場 80 周年記念事業に向けての、同窓会を主体とする実行委員会の設立が決定されました。果樹試験場の新品種や新技術の開発と果樹栽培を指向する学生を全力で応援するために行うものです。会員の皆様におかれましても果樹試験場 80 周年記念事業へのご理解とご協力をお願い致します。



「水にお金と労力をかけ、果樹をつくる」時代に

果樹試験場長 中 澤 徹 守

令和 7 年 4 月から果樹試験場長を務めております、よろしくお願いします。同窓会の皆様には当场並びに農業大学校果樹実科・研究科に多大なるご支援ご協力を賜っており、感謝申し上げます。特に 7 年度は学生募集の活動を親和会の皆様とともに提案・実行いただき、本当にありがとうございました。そのおかげもあり、昨年を上回る人数が果樹実科を受験予定です。また現在は実科生 7 名と研究科生 7 名が在籍しており、日々の実習と座学に励んでおります。いずれも近い将来農家として指導者として地域に入る予定ですので、皆様からご支援をいただきながら果樹産業を支える人材に育っていくことを期待しています。

さて、水について考えてみたいと思います。当场を擁する須坂市の日滝原を普及員として飛び回っていた 30 年前に、ベテラン農家から次のような話を聞きました。「日滝原にはかつて 7 本の沢があり、そこに畑をもつ者は裕福だった」、「雁田山のことをカレヤマと呼んでおり、『ほら、カレヤマの松が枯れてきたから、畑に水をまけ』が合言葉だった」、「畑かん施設ができてから、りんごやぶどう栽培がさかんになり、皆が裕福になった」、「だが水路が乏しいのでハウスぶどうができる場所は限られる」等々、いずれも水に苦労した土地柄だと感じます。

着目したいのは、畑かん施設と水路の指摘です。これは県内の多くの果樹産地でも同様と推測します。昭和 30～40 年代に畑地かんがい事業が各地で行われ、水路の整備、スプリンクラーによるかん水など地域ごとに様々な手段で、果樹園に水が供給されるようになりました。当時は待望の水でしたので、畑かんに必要なコスト支出は果樹農家なら当然だったでしょう。しかしあれから 60 年、現在ではコストのとらえ方も人によりさまざまになっていると聞きます。

令和 6 年・7 年と夏場の高温干ばつは強烈でした。その影響で肥大不足、障害発生などが各地で見られています。対策はかん水の励行ですが「わかっているが、これ以上はできない」との回答がたいへん多いのが実態です。しかし、それでは先に進めません。

今後の果樹農業のキーワードは、いかに水にお金と労力をかけるか、と予想します。水があるなら有効に活用する、水が無いなら確保する手段を考える、一人の力で水を確保できないなら共同で考える・・・管理の要は「水」、そんな時代が再び来るでしょう。これは悲観ではありません、将来の分析です。解決に向け、今からできることを検討していきましょう。試験場もそれに応えるような技術開発に励んでまいりたいと思います。

同窓会だより発刊によせて

令和 7 年度父母の会会長
北 澤 富 士 男

皆様はじめまして、令和 7 年度父母の会会長を務めさせていただいております諏訪市在住でりんご、モモなど果樹園を経営しております、北澤富士男と申します。

果樹試験場同窓会の皆様には長野県農業大学校果樹実科、研究科の学生たちの活動にご協力いただいておりますことに、学生の父母を代表しまして心より感謝申し上げます。現在息子優志が果樹研究科でお世話になっており、私自身も果樹試験場で実科、研究科で学んだ経歴があります。それが現在の営農の礎となっており当時研修で培った技術や知識、果樹試験場でお世話になった職員の皆様との繋がりや仲間たちとの人脈は貴重な財産となっております。

現在果樹試験場で学ぶ学生もそれぞれの進路で、果樹試験場で培った技術や知識そして人脈を生かして、存分に活躍してくれると期待しております。

さてここからは少し自身の経営の問題点から思いつく今後の果樹経営に必要であろう事項をいくつか述べさせていただきたいと思います。

これらは農大時代には研修できなかった事項であり現在自身が研修し直したい事項でもあります。

- ・ P C を駆使した十分な経営管理
- ・ S N S を利用した情報発信と消費者とのコミュニケーション
- ・ 高密植栽培など最新技術における土壌管理（施肥、水分管理等）

いずれも自身が現在非常に苦労している分野（極度のアナログ人間であるため、インターネットや P C を扱うのが非常に苦手な故）であり、農大時代に身に付けておきたかった事項であります。現在の学生たちは P C インターネット S N S 等に慣れ親しんだ世代ではあると思いますが、農業経営に活かせるレベルの研修を行ってほしいと思います。

例えば農業簿記ソフトを使った P C の実践的な研修、S N S での広告ページ作成などです。消費者ニーズや社会情勢がほんの数年で激しく変化するこれからの時代においても、果樹試験場及び長野県農業大学校果樹実科、研究科が時代の変化に沿った研修プログラムを用いて、これからの果樹産業で活躍する人材をどんどん輩出していくことを期待しております。

最後になりますが、果樹試験場同窓会の皆様には今後のご健勝をお祈りするとともに長野県農業大学校果樹実科、研究科への変わらぬご協力をお願いいたします。

果樹産地視察研修報告-1

中南信方面果樹産地視察

果樹実科 伊藤 碧



(1) 赤沢恵司氏（長野県松本市）

赤沢恵司さんの圃場では主にデラウェアを栽培していて、次にシャインマスカット、ルージュを露地栽培で育てている。メインで育てているデラウェアは大粒品種が流行しても数を減らさず、今育てている大粒品種であるシャインマスカットやルージュと一緒に栽培できる利点を利用し栽培していくとお話しして下さいました。また、カメムシによる被害、鳥による被害が近年増えている事、デラウェアは他の大粒品種（シャインマスカット）に比べて摘粒を行う際に、ピンセットを用いるなど、大粒ぶどうと小粒ぶどうの栽培における其々のし易さ、し難さについて知る事が出来ました。



(2) 山辺ワイナリー（長野県松本市）

山辺ワイナリーでは、自社農場にしてシャルドネ・ソーヴィニヨン・ブランなどの加工品種をワインに利用し、周辺の契約農家からデラウェア・ナイアガラ・コンコルド・巨峰・サンセミオンを仕入れてワインを作っている。

自社農場では鳥対策にネットを使用し、木全体にネットを掛け対策をしていると知りました。また、樹木全体に日光を当てる為に樹形を変えたり、様々な栽培法のやり方を行っているを知りました。



(3) 白鳥農園（長野県伊那市）

白鳥農園さんでは、メインをリンゴその他に梨・ブドウを栽培していた。リンゴは高密植栽培を行っていて、高密植栽培でよく用いられるフェザー苗を使用するのではなく、1 本棒で高密植栽培をするという独自の方法で栽培していました。木は側枝を多く付け、平均で 50 個の果実を实らせる栽培を行っていました。広い圃場で様々な品種を栽培する中で、シナノリップが高密植栽培で育て易く管理しやすい品種だと分かりました。棚を作る時に業者に頼むと値段が高くなる為、海外で利用されている方法を使い業者に頼るだけでなく、自分達で輸入して相対的に安価な材料を仕入れて自分達で作る方法も行っていると知り、自分の将来にも役立ちそうだと思います。

(4) カモシカシードル（長野県伊那市）

カモシカシードルでは主に生食用リンゴではなく加工用リンゴを用いて「スパークリング」や「シードル」を製造している。工場内部では、リンゴをすりつぶし、プレスして果汁を取り出しタンクで酵母を混ぜてビン詰をするという工程を挟み、ビン内部で 2 次発酵を行なわせて、炭酸ガスを作り出すという方法を採用していると知りました。また、「シードル」を超えたアルコール度数の製品の作り方についても知れました。周辺の農家さんから依頼を受け、委託も行っていると知り、将来に活かせればと思いました。果物の大半が酒にでき、酸性の強いものは酵母が死んでしまう為レモンなどで「シードル」は作れないと知れました。

(5) なかひら農園（長野県下伊那郡松川町）

なかひら農園では、圃場を 12 ヘクタール所用しており、高齢化などで担い手のない農場を利用している。ここでは、加工品に力を入れておりリンゴのジュース、スムージーなどの幅広い種類の製品を製造していました。加工品を作る工程で出た加工残渣を堆肥化し、フードロスにも配慮された営業をしていると知りました。また、温暖化にも対応した品種を作っており「甘い夢」「なっぷる」を栽培していると知りました。年間 200 台ほどの観光バスを入れるなど、かなりの規模で営業している。

(6) 北澤 章氏（長野県下伊那郡松川町）



北澤さんの圃場では梨の栽培をされており、近年では梨は生産量が大幅に減少して 1 個あたりの価値が大幅に増加している。そして、梨をジョイント栽培し、60 度にする事により作業性の向上（収量 UP・単純化）が期待できる作り方だと知った。しかしデメリットとしては、ジョイント部分を作るのが難関であり、ある程度経験を積む必要がある。また、防霜ファンの風が通りにくいと言うデメリットもあるが、とても革新的でとても良い栽培方法だと思います。

(7) 南信農業試験場（長野県下伊那郡高森町）

南信農業試験場では、梨・柿を栽培していて、梨のジョイント栽培や柿のドローン防除など、先進的な事を研究している。梨の袋の色による違いがあると言う事と、リンゴや梨も共通して花粉を使用する際に海外(特に中国)から輸入して使用すると火傷病という病気が発生する可能性がある為、使用(輸入)が禁止されていると知りました。また、落葉から黒星病が出てしまうので、トラクターのロータリーを用いて落葉を破碎し、DMI 剤を使用しない(出来るだけ)栽培方法も試験されている。

今回 7 つの場所を視察して、果樹試験場以外の各農家さん達が工夫をして行っている栽培方法を知る事ができ、自分の将来に役立てられそうな事がとても多くて考えさせられる視察研修でした。梨のジョイント栽培については自分で理解を深めて将来的に家に取り入れたいと思いました。



果樹産地視察研修報告-2

中国・九州方面果樹産地視察研修

果樹研究科 小林 千夏

(1) 林ぶどう研究所（岡山県岡山市）

林さんは、2000 年から 2003 年まで花澤ぶどう研究所で栽培と育種を学び、その後ぶどう栽培に取り組むようになった。慣行栽培から始まり、現在は海藻や米ぬかなどの有機物を使用した栽培や薬剤散布を防除暦の約半分で行う栽培をしている。また、生食用や醸造用の品種改良にも取り組んでいる。2014 年に品種登録された「マスカットジパング」は、「ロザリオビアンコ」と「アリサ」の交配によって開発された。生産圃場は 15a、育種の選抜圃場は 20～25a あり、播種や交配は毎年 400～500 行っている。栽培や育種以外にも県の観光課の方と連携して、10～20 品種の食べ比べ企画を年に 10～20 回ほど行ったり、フレンチのコース料理と組み合わせ商品価値を高める企画に取り組んだりしている。



(2) 岡山県農林水産総合センター農業研究所（岡山県赤磐市）

岡山は、白いももで有名だからこそ育種に力を入れている。200～300 ほどの種を交配し、5 年に 1 度の頻度で品種を育成している。暑さに強く、白色で花粉を有するものなどを効率的に選抜するために DNA マーカー選抜技術などの開発に取り組んでいる。

温暖化対策としては、袋の中の温度が 2、3 度下がる袋を使用している。40 度は厳しいため、45 度の暑さに耐えることができるものの品種を育成することが必要になる。また、もう一つの対策として、根も温度を感じるため、栽植時に可能な限り根を下方に沈め温度変化を減らすやり方を用いている。ひだ国府紅しだれ台木は、根が下に伸びやすいため暑さに比較的強い可能性もある。



(3) 農研機構果樹茶業研究部門ブドウカキ研究拠点（広島県東広島市）

安芸津ブドウ・カキ研究拠点の敷地は 19 ha、圃場は 12ha、標高は 100～180m である。品種育成、栽培生理、病害虫に関することに取り組んでいる。品種育成では「高品質・大粒・皮ごと食べられる・良着色・種なし栽培可」のぶどうを目指し、「良食味・良外観・早生・多収の完全甘柿」の柿を目指している。農研機構ではシャインマスカットやグロースクロネなど 15 品種のぶどうが育成されている。

今年のシャインマスカットは、梅雨明けが早いためか成熟不良が見られ、糖度が上がりにくい傾向があったと仰っていた。柿に関しては、昨年カメムシが多く、生理落下も多い年だったが今年はカメムシが少ない傾向であったと仰っていた。また、虫に関してはカイガラムシが増加傾向にあると仰っていた。



(4) 農事組合法人徳佐りんご組合 友清園（山口県山口市）

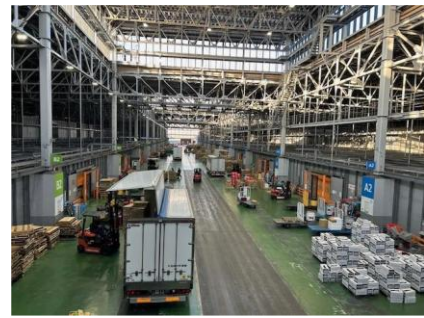
昭和 21 年よりりんごの栽培を行っている観光果樹園である。約 3ha の面積を 15 人程で運営している。りんご狩りには、年に 5 万人以上の方々が訪れる。様々な品種を栽培しており、訪れた方が 2 ～6 品種ほどのりんごを食べ比べができるような環境を整えている。また、経営安定につなげるためブルーベリーも栽培しており、ブルーベリー狩りを 6/20 ごろから 1 か月行っている。ジュースやジャムなどの加工品にも取り組んでいる。加えて、JA や観光協会などと協力して、りんごを収穫するところから始まるりんご飴づくり体験などの企画を行っている。

(5) 福岡中央市場青果市場（福岡県福岡市）

市場では取引形態にあわせた機能的な施設配置が行われている。約 10,000 m² の広さで平均 15 度の定温卸売場では、相対取引を中心とした大量物流に対応している。卸売場では、朝 7 時から 8 時半ごろまで小売業者等に対応したせり取引が行われる。せりは全体の 1 割以下であるが、固定せりと移動せりの 2 種類がある。仲卸店舗では、定温卸売場が隣接しており、営業形態等に応じて 3 つのゾーンに分けて

それぞれの卸売場に面して配置されている。また、高度な品質管理体制が評価され卸売市場として全国で初めての市場 JAS 認証を取得し、食の安全・安心が確保されている。

取引状況としては、国内果実は年々減少傾向であり、輸入果実が増加傾向にある。長野県産は計 1921t で、すいか 1100t、りんご 500t、ぶどう 100t、もも 100t、梨 70t である。シェア率は、すいか 23%と多め、りんご 15%、ぶどう 10%、もも 10%、梨 3%である。（研修時点）



（6）福岡県農林業総合試験場果樹部（福岡県筑紫野市）

柑橘に関しては、カラタチ台 12 年生で平成 25 年 2 年生苗栽植、双幹形仕立てと開心自然形仕立ての早味かんを見学した。6 月中下旬にシートマルチを被覆、6 月下旬に粗摘果、8 月中旬に仕上げ摘果となる。双幹形仕立ては主枝が 2 本、作業動線の単純化により省力効果があり、早期樹冠拡大や密植による初期収量向上が見込まれる。柑橘は約 3 年で実が収穫できるが、樹勢が強いと糖度低下につながる。また、台木については樹が大きくなりやすいカラタチ台と樹が小さくなりやすいヒリュウ台がある。

柿に関しては、福岡県は全国 4 位の産地であり「富有」を中心とした甘柿生産が行われている。しかしながら、高齢化や栽培面積の減少、消費量の減少などの課題があり、優良品種の導入に取り組んでいる。「秋王」は福岡県育成品種であり、無核性の 9 倍体完全甘柿品種である。収穫期は 11 月上旬からで果実重は 360 g 程度、糖度は 18 度以上と大果で高糖度である。結実不安定などの問題点もあり、環状剥皮処理による結実向上技術の開発に取り組んだ。



視察研修を通して、ぶどう栽培や民間育種、ももの栽培や新品種育成、柿や柑橘の栽培、りんごの観光農園経営、大規模な青果市場の取引状況等に関する実際の現場を見て、お話をきくことができて良かった。樹勢が強いから良い、弱いから悪いなどではなく、何を目的として栽培するかで管理方法などは異なるため、園地の様子を観察し必要に応じて柔軟に対応していくこと、自分の目的を明確にもちながら先を見据えて考えていくこと、常に栽培技術などの向上に努めることなどが重要であることを改めて感じた。また、様々な場所を訪れて多様な経験を積み、新たな発見を通して知識と技術を深めていきたいと感じた。

会員コラム 1

「今年も暑い夏でした」

平成7年度卒
青木 克 敏



私が在籍した平成6年のお天気は非常な高温早魃でした。長野気象台の記録では年間総降水量は555.5mmで平年比57.6%！さらに8月16日に最高気温38.7℃になりました。この記録はいまだ破られていません。当時、実習が終わり汗だらけのTシャツを洗って干すと一瞬でバリバリに乾いてしまったような…

さて、今年の夏も猛暑日がつづき7月はまったく雨が降らず、私のぶどう園でも粒肥大が良くなかった。

そんな中、大先輩が「好適樹相を再確認しなくてはならない」とおっしゃっていた。毎年高温早魃なのでとても重要なことだと思いました。

私の場合はちょっと棚面が暗い所で結果が良かった。強烈な高温早魃から小粒で黄色過ぎるシャインマスカットが増えていることを考えると、棚面の葉数を少し増やした方が良いのではないかと思った。しかし、暗いと着色不良、低糖度になり難しいところである。

猛暑はもっとひどくなるかもしれません。自園の土壌性質を考えながら適正な樹勢を維持していきたいと思いました。

会員コラム 2

「あれから10年」

平成27年度卒
高橋 央



試験場で過ごした2年は本当に濃かった。あれから10年経ったのかと思うと驚くし少し寂しい。果樹農家を目指す仲間達と適正着果の話からゲーセンの楽しみ方まで延々と話した時間は宝物だ。気の合う仲間と一緒に経営ができればそれぞれの興味と知識が合わさって楽しいだろうと妄想したりもした。当時から中身の成長がないまま時間が過ぎていることに少し焦りを感じながら今に至る。

さて、「やりたい経営」とは。正直、全く分からない。リンゴ栽培であれば生産性を考えて高密度植栽培へとシフトしていくのが正解であるように思う。進捗管理もしやすく、労力や防除にもメリットは大きい。一応わかっているつもりだが「やるぞ!」という気分になれないのは日々忙しくて真面目なことを考える暇がないからなのか。単純に私が天邪鬼なのかもしれない。効率化の先の目標があれば何か変わるだろうか。そのためにもやりたいことは何でもやって新しい視点を得たい。

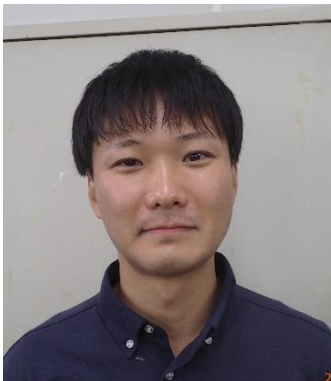
そもそも「果樹農家であること」これについても分からない。辞めようと思うこともある。この職業についての理由がそもそも薄かったのかもしれない。地域の農業を支えたい、貢献したいとか思えない私は農家には向いていないのかもしれないと思う。「試験場で過ごした2年間」と「冬場のまとまった時間」この2つが接着剤のようになって続いた10年だった気がする。

ネガティブだが自分の奥底にあるものが書けて少しすっきりした。機会を与えていただき感謝します。

最後に、卒業後もお酒飲んでくれたり、遊んでくれたりする仲間に抱えきれない感謝を。最近会えてない仲間には「飲み行きましょう。」これが言いたかった。

て

果樹試験場トピックス



「温暖化によるリンゴ褐斑病の発生生態への影響」

果樹試験場環境部 技師 岩岡 広樹

果樹試験場では、地球温暖化による果樹の病虫害への影響を調査しています。そこで今回は温暖化によるリンゴ褐斑病の生態への影響について紹介します。

リンゴの重要病害である褐斑病について、近年の一次感染時期や初期の発生量等の発生生態について調査を行い、約20年前の状況と比較しました。一次伝染源である子のう胞子の飛散開始時期は20年前に比べて2～4半旬早まっていることが確認されました(表1)。また、一次伝染開始時期も早まっており、それに伴って発生初期である6～7月の発生量も増加していることが確認されました(図1)。本病は二次伝染初期の防除が有効ですが、発生量が増加してからの防除では十分な効果が見込めません。そのため、防除のタイミングについて改めて検討したところ、従来は7月上旬～中旬が防除適

期でしたが、近年は 6 月下旬～7 月初旬の散布による防除効果が安定して高く、散布適期が前倒しになっていることが確認されました（図 2）。

温暖化が病害虫の生態に与える影響について、今後も随時評価を行い、近年の病害虫の生態に合わせた防除方法を検討することで、生産現場での果樹の安定生産に役立つ情報を発信していきたいと思います。

表 1 リンゴ褐斑病菌子のう胞子の飛散開始時期

年	子のう胞子の飛散開始時期
1999年	4月5半旬
2000年	4月6半旬
2001年	4月3半旬
2021年	4月3半旬
2022年	4月3半旬
2023年	4月3半旬
2024年	4月2半旬

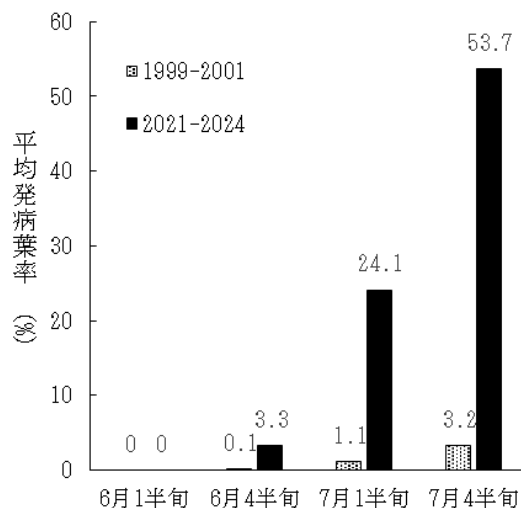


図 1 発生初期の発病状況（殺菌剤無散布樹）

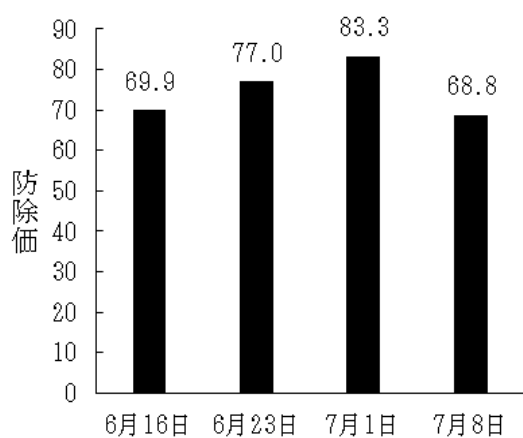


図 2 二次伝染初期のオンリーワンフロアブルの散布による防除効果（2024 年、果樹試験場）

令和 7 年度同窓会総会報告

去る 7 月 30 日、農業技術館講堂において、「令和 7 年度果樹試験場同窓会総会」が開催されました。

令和 6 年度事業報告・一般および基金会計収支決算報告、令和 6 年度事業計画・一般および基金会計予算(案)の審議の決算報告が行われ、修正の提案等はなく、賛成多数で原案のまま承認・可決されました。

令和 6 年度に役員の改選が執り行われ令和 7 年度（2 年間の任）も引続き役員を担うことで承認されました。

（文責 農大果樹実科・研究科事務局）

令和 8 年度学生募集

令和 7 年度一般入学試験後期日程は、募集期間が 1 月 7 日～21 日、入学試験が 2 月 5 日に行われます。詳細については事務局にお問い合わせ下さい。なお、推薦入学試験及び一般入学試験前期日程は既に終了しました。

●受験資格

果樹実科：高校を卒業、若しくは、18 才以上で高校卒業と同等以上の学力があると認められる者。

果樹研究科：果樹実科又は短大を卒業、若しくはそれと同等以上の学力があると認められる者。

●提出書類 入学願書 最終学校の調査書等

●受験料 2,200 円(長野県収入証紙)

●提出先・問い合わせ先

長野県農業大学校果樹実科・研究科

〒382-0072 長野県須坂市小河原 492

TEL 026-246-2415

FAX 026-251-2357

令和 6 ・ 7 年度 同窓会役員体制

どうぞよろしくお願い致します。

会 長 松 本 和 実（高山村）
副会長 藤 沢 正 実（中野市） ・ 柳 沢 司（長野市）
監 事 島 田 智 仁（小布施町） ・ 田 中 俊 行（長野市）

令和 7 年度果樹試験場職員体制

場長	中 澤 徹 守	場総括
栽培部長	江 口 直 樹	部総括
主幹	馬 場 孝 幸	ほ場運営
研究員	土 田 河	リンゴ
研究員	森 幸 穂	核果類
研究員	大日方 敦 哉	ブドウ
(再)研究員	船 橋 徹 郎	核果類
技師	棚 橋 香 月	リンゴ
技師	田 邊 友 樹	ブドウ
臨任	吉 村 佐矢佳	
育種部長	峯 村 万 貴	部総括
専門研究員	小仁所 邦 彦	リンゴ
研究員	平 賀 正 浩	ブドウ
研究員	市 川 悦 子	ブドウ
研究員	上 條 和 明	核果類
研究員	山 口 維 尚	リンゴ
技師	土 屋 和 希	核果類
環境部長	近 藤 賢 一	部総括
研究員	石 井 伸 洋	虫害
研究員	宮 寄 光	虫害
技師	島 袋 稚 子	病害
技師	岩 岡 広 樹	虫害
臨任	牧 み ち 代	

令和 7 年度農大果樹実科・研究科職員体制

特別教授 赤 松 紀久実 教務担当
特別教授 増 田 千恵子 庶務担当



果樹試験場親和会からのお願い

果樹試験場親和会では、果樹実科・研究科の卒業生がご結婚される際に、お祝い（レタックス）をお送りしております。

同窓生のご結婚の情報がありましたら、親和会（農大事務局）までご一報ください。

